



東明

□令和3年4月28日発行

□男鹿市立男鹿東中学校

男鹿市船越字根木169番地

今こそ“英志つらぬけ”を胸に

創立50年の節目、男鹿東中、新たなスタート！

校長 森山 直人

4月7日に83名の新入生を迎え、全校生徒277名、教職員37名で、令和3年度が始まりました。教職員一同、新たな気持ちで、生徒たちの成長のために、力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【令和3年度の教育目標】

英志つらぬけ

～和して、問い、答え、考え、創造しよう
ゆめはばたかせ～

今年度、教育目標を「英志つらぬけ」としました。これは、これまでも校訓として愛されてきた言葉で、校歌の一節でもあります。

【「英志つらぬけ」の意味】

英志の「志」という漢字は、上の「士」の部分が歩く足の形を表し、「心」と合わせて「心の目指す行き先」という意味をもつことから、心に決めた目的や目標を表します。さらに、志は、「相手のためを思う気持ち」という意味ももちます。つまり、自分の目標だけではなく、周りの人を幸せにするという意味もあるのです。英志の「英」は、美しい、優れているという意味です。

したがって、「英志つらぬけ」は、「自分も皆も幸せになる、心に決めたかけがえのない目標を実現するために、努力し、突き進んでいこう」という意味になります。

来年度、本校は創立50周年を迎えます。「英志つらぬけ」の意味を改めて押さえ、原点を踏まえた上で新しいステージに向けてスタートしたい、また、東中生の実態を踏まえ、今こそこの言葉の意味を胸に刻んでほしい、という願いを込め、設定しました。



東中 NiceShots!

4/15 校庭の桜が満開です。青空に向かって咲き誇るその姿は、新年度、心機一転、意気揚々と活動している東中生の姿と重なります。

【三つの志と目指す生徒像】

英志をつらぬくために必要な三つの志を挙げます。

学

見通しをもって自ら学ぶ生徒

今日の授業では何ができるようにになればよいか、どのように学んでいけばよいかを考え、自分から進んで学んでこそ、生きて働く本物の力が身に付きます。将来の自分の目標を実現するために、1年後や10年後を見通して学んでいくという意味も込められています。

挑

自信をもって笑顔で挑戦する生徒

心に決めた目標を実現するためには、つらくても頑張る気力や、それを乗り越えるだけの体力が求められます。そして何より、笑顔が、前向きに挑戦する勇気を与えてくれます。だめだとすぐにあきらめずに挑戦してみると、自分の新たな可能性に気付くはずですよ。

結

仲間や地域と絆を結ぶ生徒

周りの人の幸せも含む「英志」をつらぬくためには、一人では実現できません。仲間を支えたり、地域に貢献することはもちろん、仲間に助けられたり、地域の方々に励まされたりすることもあるでしょう。他との絆を強く、太く結ぶことが、英志をつらぬくための大きな支えになります。

さらに、教育目標の副題を、「～和して、問い、答え、考え、創造しよう ゆめはばたかせ～」としました。これも、校歌の一節ですが、「和して」は「結」、「問い、答え、考え、創造しよう」は「学」、「ゆめはばたかせ」は「挑」を表し、三つの志との関連を図りました。

令和3年度は、生徒も、教職員も、「英志つらぬけ」と、三つの志、「学・挑・結」を学校の柱に据え、チーム東中で進んでいきます。保護者の皆様、地域の皆様のご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。